

20065

クリニカルパスの改訂でみた業務改善とスタッフの意識向上

背景：当院の心臓カテーテル検査室は2011年11月に常勤医が着任し稼働した。その際、医師の前任地におけるクリニカルパス（合計7種類）を当院形式に変換し運用した。2012年12月頃、検査・治療件数として100例を越えたところで、問題点が明らかになってきた。方法：問題点を院内の関係部署から抽出し、とりまとめを行った。High-Volumeセンターとして岸和田徳州会病院を見学させていただき、症例数の増加に対応できるよう配慮した。また同規模施設として東可児病院のワークショップに参加し、ノウハウをいただいた。それらをもとに、2013年5月、一部追加、大幅改訂を行い、合計10種類で運用を開始した。結果：パスの改訂、業務手順書の作成にあたり、他施設からのノウハウを織り込み、当院の実情に適したものとすることで、医療安全面の向上、Patient Flowの改善、Staff stressの低減が実現できた。考察：業務改善に必要と理解していつつも、事務作業は日常業務に忙殺され後回しになりがちとなる。ことに、インターベンションは関係部署が多く、意見抽出や合同会議の調整に難渋した。さらに、スタッフ間の経験、能力、意欲に差が大きかった。「業務の簡素化、医療安全対策」を全面に出すことで意見抽出にも成功した。さらにスタッフ皆で他施設見学を行ったこと、その道のエキスパートに直接教えを請ったことはモチベーション向上にも大きく貢献したと考える。今後も医療安全を保ちつつ、患者サイドに立ち、洗練された業務を行えるよう努力していきたい。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号